

リレー連載生ヒストリー—温故知新 第17回 塩野崎英二さん（66期）

関東同窓会運営に参画したきっかけは、66期が総会の主担当幹事期となった時、それまで期代表幹事として活動していた清水通男さんから誘われて総会の事前準備に参加したのがきっかけです。それまでは殆ど活動実態を知りませんでした。総会終了後に次期執行部に参画してほしいと連絡があり受諾しました。

印象に残っていることがあります。私はほかのいくつかの団体にも関わっていますが、もっとも違うなと感じたのは、関東同窓会では過去の執行部経験者が現執行部に関与（コントロール）しすぎることでした。ある時の幹事会では執行部からの提案に我を通して譲らない議論が続き、出席者の3割が途中退席してしまいました。退席者からは、事後連絡として、「あれでは何のための執行部かわからない」「もう代表幹事はやめる」と厳しいお話がありました。次の執行部選出の時には推薦した方から「あのような議論が続く同窓会では執行部に加わりたくない」と次世代への悪影響も出ました。過去に執行部を経験された方々が現執行部よりも同窓会の内容を熟知されているのは当然です。しかしながら、度が過ぎるのではないかと感じていました。複数名おられたことが残念で、つらかった思い出です。

就任後は「会員の関連参加の拡大」が主たる役割でした。試行錯誤の結果、“活動していただける期代表幹事の発掘”に尽きるのではと思います。満足のある成果にはなりませんでしたが、役員、執行部のみならず、会員全員が「代表幹事の発掘」を心掛けるべきだと思います。

多くの会員からお聞きしますが、我が関東同窓会の活動は歴史的にも素晴らしいものだと感じています。守るべき大枠は外さないようにしながら、新しい運営アイデアを出し合って益々発展してほしいと心から願っています。